

バリアフリー通信

No.3 (通算13号) 2007年6月27日 札幌学院大学バリアフリー委員会

「聴覚障害の理解と支援方法」に関する講演会

6月9日(土)、午後1時10分から本学D201教室にて「聴覚障害の理解と支援方法」に関する講演会が開かれました。一般の方や他大学の学生、先生などたくさんの方が参加していました。講演会では、専修大学と明治大学で非常勤講師をされている吉川あゆみさんに「聴覚障がい学生への理解と情報保障」というテーマで話していただきました。また、つくば技術大学障害者高等教育研究支援センターの中島亜紀子さんに「聴覚障がい学生に対する情報保障の支援方法」というテーマで話していただきました。まず、吉川さんに手話を使うろう者の人口や、自分が初めてノートテイクをしてもらった時のこと、そしてサポートについてのお話をしていただきました。「サポートは大変だけど、聞こえない学生に分かる喜びと知る楽しさを伝えてほしい。聞こえない学生もサポートを拒むのではなく、受けてほしい」と、サポートの重要性を教えてくださいました。続いて、中島さんに、情報保障支援の目的や、情報保障を実現するためには利用者と支援者、教職員の三方の協力が必要だということ、そして質の高い支援のための学習方法の紹介などをしていただきました。

その後G館8階にて交流会が行われました。中島さんからサポートセンターの説明があり、次にバリアフリー委員会の紹介がありました。参加者は積極的に交流し、多くの方と意見交換をしていました。(文責 澤田晴恵)



手話交流会

6月1日(金)に2201教室にて手話交流会が開催されました。はじめに学習部からのあいさつがあり、次に子ども発達学科2年の伊藤康宏さんによる乾杯が行われました。

グループごとの自由交流の時間の後、最初の企画である「借り物競争」が行われました。伝達方法は手話と指文字とジェスチャーだけということで、なかなか相手に伝わらずに苦労しながらも、皆楽しそうにゲームに参加していました。

10分間の休憩を挟み、今度は2つ目の企画、「物語ゲーム」を行いました。昔話や映画をジェスチャーによって表現するというこの企画では、各グループがそれぞれのアイディアによって、物語を楽しく表現していました。参加者はみんな楽しんでいました。(文責 大森麻美)

みんなでしゃべり場



5月23日(金)に第1回「みんなでしゃべり場」がA303教室にて午後6時半より開かれました。今回の参加者は27名でした。

まず初めにしゃべり場を開くにあたっての主旨や流れの説明があり、次に学習部からバリアフリーについての講義がありました。その後は各グループに分かれ、「札幌学院大学にあるバリアフリーとは?」と「札幌学院大学にあつたらよいバリアフリーは?」の2つをテーマに討論を行いました。最後に各グループから討論結果の報告があり、それぞれの意見を交換していました。(文責 山田洸平)

テイク講習会

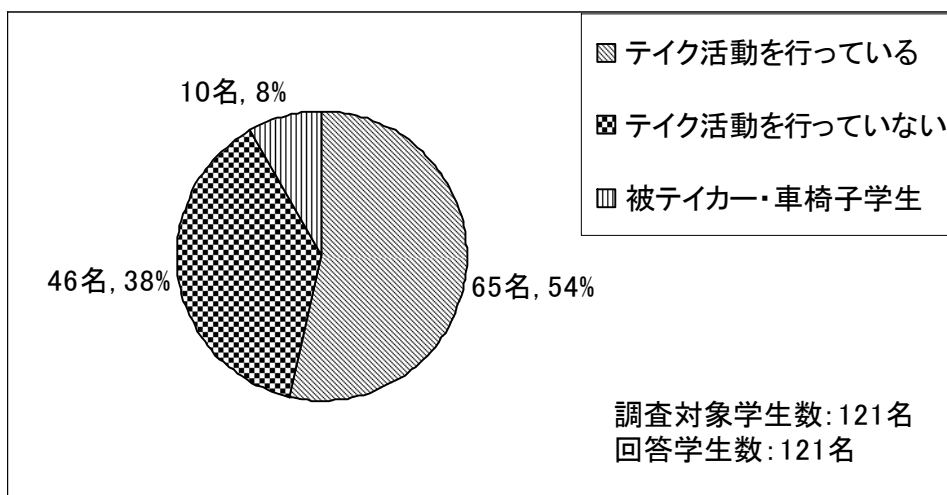
新入会生もテイク活動に入った6月8日にテイク統括部が行った調査により、テイカーの人数がわかりました。(詳しくは図参照、対象：バリアフリー委員会に所属する全学生121名)

問題点はノートテイカーとパソコン通訳の差が大きすぎるということと、46名の委員がテイク活動を行っていないということです。

ただ、今年の新入会生はパソコン通訳に興味がある方が多く、テイク講習会にも積極的に参加しているので、

これらの問題は少しずつですが解決していくと考えられます。

またテイク講習会も昨年より回数を増やし、新入会生が練習できる機会が増え、今後は楽しみです。(文責 池田大樹)



♪編集後記♪

澤田 晴恵：初めて記事を書きましたが、うまく書けなくて大変でした。

山本 由貴：今回は記事を書きませんでした。広報部は楽しくて最高です☆

兜 いずみ：初めて広報の仕事に携わりました。今後も頑張ります♪

芦崎 航：とりあえず頑張りますわ。

武田 成乃：記事が無くなるトラブルも後輩が助けてくれてありがたかったです。

萱野 翔太：今回初めて編集作業を行い、勉強させていただきました。

池田 大樹：初めて記事を書きました。また機会があれば書きたいと思います。

山田 洸平：今回から新入部員の方に本格的に関わってもらいました。これからも頑張ってもらいたいです。作業配置などで何かと反省するべき点が出ました。次からはもっと部長として頑張らないといけないなと思いました。